

コリア国際学園ユネスコ委員会

ユネスコスクールとして、学校全体でユネスコ活動を活発化させるため、2019年度に KISユネスコ委員会を立ち上げました。今年で活動 3年目を迎え、委員会メンバーも中等部 1年生から高等部 2年生まで全学年揃い、先輩後輩仲良く、賑やかに活動しています。今年度は、一週間の活動ごとに振り返りをしっかり行い、一つひとつ活動を丁寧に進めていくことに力を入れています。

ペットボトルキャップをワクチンに！

KISユネスコ委員会はペットボトルキャップを集める活動を長年実施してきました。各教室で集めたペット

ボトルキャップを2階廊下に設置されたペットボトルキャップ回収ボックスに集め、いっぱいになら別のある袋に入れて保管します。数年間、活動してきましたが、2020年11月、初めての寄付を行いました。寄付したペットボトルキャップは「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」を通じてワクチンに換えて途上国に送られます。

これからも継続して集めていきますので、ご家庭で集めたものを学校に持ってきていただければ助かります。



高校生カンボジアオンラインスタディツアーに参加

2021年8月21日(土)にユネスコ委員会の3名が高校生カンボジアオンラインスタディツアーに参加しました。このスタディツアーは公益財団法人日本ユネスコ協会連盟の主催であり、参加校15校のうちの1校にKISが見事選ばれ、実現しました。

日本ユネスコ協会カンボジア事務所や寺子屋、寺子屋で学習している14歳の女の子の自宅と中継を繋ぎ、カンボジアと日本との質疑応答を通して、カンボジアの現状や諸課題について考える貴重な時間となりました。

寺子屋に通う生徒の言葉で、寺子屋で楽しいことは、友達と会えること。難しいことは、学校をドロップアウトしたので字が読めないこと、という言葉が印象に残っています。教育の大切さを再認識する時間となりました。

コロナ禍で活動できることが制限されていますが、KISユネスコ委員会はこれからも、「自分たちにできること」を考え、実践していきたいです。



届けよう、服のチカラプロジェクト

2019年度にKISが初めて挑戦した「届けよう、服のチカラプロジェクト」に今年度も参加することになりました。このプロジェクトは、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とファーストリテイリング株式会社（ユニクロやジーユー）が取り組む、小・中・高校生が対象の参加型学習プログラムであり、古着を回収し、難民の皆さんに古着を届けるというプロジェクトです。

KISだけではなく、近隣の保育園や小中学校、豊川いのち・愛・ゆめセンターの方々などにもご協力を頂き、2019年度は合計765着の服を回収し、ファーストリテイリングを通して、コンゴ民主共和国に寄贈されました。

この活動に参加するため、6月18日にファーストリテイリングの方がSDGsの概要やリサイクルの意義、服にはどのようなチカラがあるのかなどについて説明するため、出張授業をしに来て下さいました。この特別授業には中等部1年生から高等部2年生までが参加しましたが、皆熱心に特別授業に取り組んでいました。

ユネスコ委員会では、2019年度よりも多くの古着を集めることで、どのように校内や地域住民の方々に発信するかなどについて会議を重ねました。地域住民の方々にご協力を頂くのはもちろん、今年度は委員会メンバーの出身小中学校にもお願いをし、今現在たくさんの古着を集めています。皆さん、「届けよう、服のチカラプロジェクト」にご協力ください！

回収対象

子ども服のみ(赤ちゃん用～160cm) ユニクロ・ジーユー以外の製品もOK。
パンツや靴下などの下着や、帽子・靴・マフラーなどの小物類は対象外です。

回収期限

11月12日(金) KISに持ってきて下さい！



開雲中学校と オンライン交流会を実施

6月11日、25日に韓国梁山にある開雲中学校とのオンライン交流会を行いました。開雲中学校とは、2014年からホームステイを受け入れたり、韓国研修で訪問したりして親交を深めてきました。2週間韓国に滞在し、現地の授業に参加するこの研修は、長く付き合える友人ができ、語学力も大きく向上することから生徒たちにも人気が高く、楽しみにしている生徒が多いイベントのひとつです。

しかし、2020年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、交流が途切れていきました。そこで、今年度から新しい試みとして、オンライン交流会を定期開催することにしました。交流会を行うにあたり、生徒たちは初対面の相手と限られた時間の中で仲良くなるために、様々なアイデアを出し合いながら準備を行いました。初回の交流会では、自己紹介や観光地紹介、その後はお互いに楽しめるゲームを紹介しあい、オンラインで工夫しながら交流を楽しんでいます。学んできたコリア語を使い、学外の友人とコミュニケーションをとる経験が、生徒たちの自信にもつながっています。この交流会は、今後も継続していく予定です。



開雲中学校校長先生からのメッセージ



小中韓 만남

개운중학교 송영태 교장

만남은 우리를 가슴을 늘 뜨겁게 합니다. 마음 속에서 새록 새록 열리는 추억들은 코리아 국제학교와 개운중학교 만남의 세월이 길었던 까닭일 것입니다.

올 봄 꽃길 따라 먼 길 훌쩍 떠나신 채현국 이사장님께서 생전에 「주변국의 아이들을 친구 되게 하면 국제간 분쟁(전쟁)을 줄일 수 있고 오순도순 평화롭게 살 수 있는 기반이 된다」 하셨습니다. 국제간 학생들의 오고 감을 학교가 해야 할 중요한 교육적 가치로 삼으셨습니다.

유래 없는 코로나19 바이러스에 의한 "펜데믹"으로 하늘길, 바닷길, 모두 막혀 매년 이루어지던 일본(오사카코리아국제학교), 중국(북경39중학교), 한국(개운중학교) 왕래가 잠시 멈추게 되었습니다. 만남의 지극한 바램으로 양교 선생님들의 노력이 비대면(온라인 ZOOM) 국제 교류를 이루어 냈습니다. 직접 만남에서 오는 살가움은 덜 하지만 스마트기기를 통한 만남 또한 뜻 깊었고 진지함이 묻어났습니다.

한·일간 역사에서 기억해야 할 일은 반드시 기억하여 같은 동포끼리 어깨동무를 통한 연대의 기반을 다지는 계기가 되면 좋겠습니다.

빠른 시일 내에 일상을 되찾아 마스크 뒤에 숨겨진 우리들의 아름다운 미소를 마주하고 싶습니다.

大切な出会い

開運中学校 校長 ソン・ヨンテ

出会いは私たちの胸をいつも熱くします。心の中で積み重なる思い出は、コリア国際学園と開運中学校の出会いからこれまでの歳月の長さを示しています。

今年の春に亡くなられたチエ・ヒヨングク理事長が生前、「周辺国の子供たちがお互い友人となれば、国と国との紛争を減らすことができ、仲良く平和に暮らせる基盤となる」と仰っていました。学生たちの国際的な往来や交流を、学校が担う重要な教育的価値と位置付けておられました。

これまで経験したことのない新型コロナウイルス感染症による“パンデミック”は、空や海の道を閉ざし、毎年行われていた日本のコリア国際学園、中国の北京39中学校と韓国の開運中学校との交流も中止となりました。そのような状況においても「出会い」を実現させようと模索する両校先生たちの努力により、オンラインZOOMによる国際交流を成し遂げました。直接会えた時と比べ少し寂しさを感じるもの、デジタル機器を通した出会いもまた意味深く、真摯に向かい合う様子がうかがえました。

韓日の歴史をお互い記憶しつつ、若者たちが肩を組み友情と繋がりを育む機会になればと思います。

一日でも早く日常を取り戻し、今はマスクに隠れた美しい笑顔で再会できる日を待ち望んでいます。



KIS News

KIS 祭

2020年11月21日、コリア国際学園文化祭「KIS祭」を実施しました。

新型コロナウイルス感染が拡大している中、何回も延期され、中止を検討したこともありました。しかし「みんなと楽しい思い出を作りたい!」「新入生にもKIS特有の文化を味わって欲しい!」「もうすぐ卒業する高3たちと最後の思い出を作りたい!」という生徒たちの熱い思いが集まり、念入りに感染防止対策を経てた上で「KIS祭」開催の日を迎える事ができま

夕映えスポットを生徒自らの力で作り、たくさん思い出を写真やSNSに残すことができました。コロナ禍だからできないのではなく、コロナ禍だからこそできるを見つけていき、生徒自らがKISの良い点を見つけ、紹介しました。刻々と変化する世界と共に生きていくためにどうすればいいのか、自分の将来と世界の未来についてしっかりと考えながら、現在の生活とこれからKISと自分たちの未来について考える良い機会になつたKIS祭でした。



言語力でみんなが輝けるように

言語教育は必ずそれを披露できる場を伴わなければなりません。言語教育は特に学びを実践したとき、その効果が倍増するからです。

コリア国際学園の言語教育の強みは、このような場所を数多く設けているところにあります。例えば、毎年、コリア語を利用した作文コンテスト(白日場:KIS主催)やスピーチ大会(3言語スピーチ大会:SOI S、KIS共催)などを企画しており、時代に合ったテーマをコリア語で考えさせることで、言語力とともに思考力も深められるよう努力していきます。

言語教育は必ずそれを披露できる場を伴わなければなりません。言語教育は特に学びを実践したとき、その効果が倍増するからです。

コリア国際学園の言語教育の強みは、このような場所を数多く設けているところにあります。例えば、毎年、コリア語を利用した作文コンテスト(白日場:KIS主催)やスピーチ大会(3言語スピーチ大会:SOI S、KIS共催)などを企画しており、時代に合ったテーマをコリア語で考えさせることで、言語力とともに思考力も深められるよう努力しています。

去年10月9日(ハングルの日)に行われた白日場では、レベル別でテ

今だからこそ考えなければならぬ
テーマ（中等部・新型コロナウイルス
によるオンライン授業を受けながら
気づいたこと／高等部・人々が新型型
コロナウイルスに勝ち抜くために、
真剣に考へるべきこと）でスピーチ
を行い、中等部では当時中等部1年
(現・2年) 金本由彬さんが、高等
部では当時高等部2年(現・高3) 金
亜純さんが最優秀賞を取りました。

これらの大会を経験すると、賞の
受賞にかかわらず言語力が大きくなり
上し、自信にもつながります。これ
からもコリア国際学園では使える言
語力を常に意識し、それを通して生
徒たちが輝ける場を作つていきたい
と思います。



分に見せることができました。校舎の1階には「コロナ以外のワールド・インシュー」、「コロナだからできること」、「This is KIS」、「越境人」といった4つのテーマで展示が行われました。全て生徒たちが自ら意見を出し、アイディアを集めて企画しました。それぞれの展示ではWithコロナ時代を生きる生徒たちの悩みや、登校できなくなつたことで気づいたKISへの想いがそれぞれ感じられました。その他にも4つのインス

去年新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止されるなか、3言語スピーチ大会はオンラインでの大会を試みました。11月14日10時、Zoom会議にお客さんを迎えて、第8回目の3言語スピーチ大会を開催しました。新型コロナウイルスの影響で学習環境を奪われた生徒たちに

去年新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止されるなか、3言語スピーチ大会はオンラインでの大会を試みました。11月14日10時、Zoom会議にお客さんを迎えて、第8回目の3言語スピーチ大会を開催しました。新型コロナウイルスの影響で学習環境を奪われた生徒たちに



高等部1年体験学習 in 神戸

2020年12月3日、やっと留学生を含めた高1の全員が登校できるようになり、生徒たちの新しい経験と思い出作りのきっかけに、神戸での体験学習を企画しました。生徒のほとんどは関西出身なので神戸は決して特別な街ではないかも知れませんが、今回はあるような地域の歴史や物語に焦点を当て、新しい学びを得ることの出来るコースを選定しました。



と、神戸での体験学習を企画しました。生徒のほとんどは関西出身なので神戸は決して特別な街ではないかも知れませんが、今回はあるような地域の歴史や物語に焦点を当て、新しい学びを得ることの出来るコースを選定しました。

体験学習では普段見られない生徒たちの姿があります。友達に気を配り一緒に歩幅を合わせる生徒です。19世紀末に作られたこの地は神戸の異国情緒を象徴的に表す場所です。まだ文化共生という概念ができるいない時代、日本はどの様な形で異文化と出会ったのかを勉強できる空間でした。次に向かった場所は華僑歴史博物館です。博物館の前には神戸港平野の碑があり、「アジア・太平洋戦争時期、中国人・朝鮮人や連合国軍捕虜が、港湾荷役や造船などで過酷な労働を強いられ、多くの人々が犠牲になりました。私たちはこの歴史を心に刻み、アジアの平和と強制を誓つて、ここに碑を建てました」と刻まれています。この碑に刻まれたメッセージを皆で読み、共有することで生徒達は戦争のいたましさと犠牲があつたことを心

に刻みました。最後に向かつたの

は神戸メモリアルパークです。生徒は皆、阪神大震災の後に生まれた世代ですが、このようなモンументが残されたことで、その残酷さを直接見て体験し、多くのことを学ぶことができます。いつも明るく元気な高1のみなさんですが、ここでは皆真剣に厳肅な面持ちで黙祷しました。

◆2021年成人式

1月11日

に本校卒業

生の第6回

成人式を開催しまし

たコロナ禍の中で毎年

開催しまし

た。

KISからは、金淳次理事長はじめ後援会幹事8名が参加しました。実施している会食を中心として、あいさつと記念撮影だけの感想発表のために真剣に考える姿……。日常とは異なる経験を通じて、生徒たちは成長していくます。



生前、作詞作曲歌手活動を通じて大きな業績を残された中村先生の偲ぶ会として、7月4日梅田ビルボーデにおいてメモリアルライブが行われました。

9

◆中村泰士メモリアル GPOPライブ

してくれていることでしょう。

1月11日に本校卒業生の第6回成人式を開催しました。コロナ禍の中でも毎年開催しました。KISから8名が参加しました。実施している会食を中心として、あいさつと記念撮影だけの感想発表のために真剣に考える姿……。日常とは異なる経験を通じて、生徒たちは成長していくます。



成人式では主催者であるコリア国際学園後援会から文健一理事と韓蒼現幹事のお祝いの挨拶、金正泰校長の式辞、そして恒例の新成人一人ひとりからコメントをいただきました。続いて後援会からの記念品と保護者会からのプレゼントが贈呈されました。遠方の大学や海外の大学に通つていて参加できなかつた卒業生もいますが、久しぶりに会えてうれしそうでした。

昨年末12月に亡くなられた中村泰士後援会長は、毎年のKIS成人式を楽しみにしておられました。中村先生不在の初めての成人式でしたが、きっと新成人のみなさまを応援

故人の生前映像と11曲の熱唱、そして生演奏が一体となつて、会場に集まつた参加者はいつまでも人々の心に刻まれるであろう中村先生を静かに偲んでいました。

Spirit Week

2021年5月10日～14日、生徒会の企画で「Spirit Week」を実施しました。本来Spirit Weekはアメリカの学園文化で、自分が所属する学校や団体のSpiritを表現するために同じテーマの服装をするイベントです。今回のイベントではコリア国際学園のSpiritである「人・多様性・学びの尊重」を表現するため、様々な活動を行いました。

ショートムービー制作では、新入生たちと初めての共同作業が出来ました。特に今年は新しいコースが設置され、より多様性溢れるユニークな動画が出来上がりました。

カラーコーディネイトは本来、同じ服を着ることで所属する団体の良さや精神を表現することが一般的ですが、KISの多様性をうまく表現するにはあえて違う色の服を着るのがいいと言う意見が生徒たちから出ました。「出来るだけ友達と被らないカラフルな色を選ぶ」「当日まで皆には秘密にする」と言うルールをしつかり守り、当日は様々な色で学校が染まりました。まさにKISの多様性を表しているかの如く鮮やかな校内でした。

5月18日は「Spirit Day」という名称で一日イベントの日を設けま



14期生徒会選挙

◆14期KIS生徒会長メッセージ

こんにちは。第14期生徒会長のオ・イエジンです。

私は生まれ育った韓国を離れ、2017年コリア国際学園（KIS）の中等部1年生に入学しました。私はみんなの意見をまとめて形にしていくことが好きで、KISに来てからも班長、生徒会役員になり



した。1年間頑張ってきた13期の生徒会の総会、そして新しい14期の生徒会を選ぶ選挙を実施しました。会長選挙では立候補者たちによる「楽しい学校生活を作りたい」「より良い学校を築きたい」といった熱意溢れる演説を聞くことができました。午後は体育館に場所を変え、チームワークゲームをしながら過ごしました。13期の生徒会によって、ソーシャルディスタンスを守りながらも皆が十分に楽しめる様に工夫がなされていました。これまでの念入りな準備過程が感じられる時間となりました。

「KISをより良い学校にしたい」という気持ちがとてもよく伝わってくるものでした。

中等部役員は金潤廷さん・徐輔謙さん、高等部は吳叡眞さん・盧敬心さん・稻田樹さんがそれぞれ選出されました。吳叡眞さんは他の2人の同意を得て、会長選挙に立候補しました。賛否投票の形でしたが、皆の賛成票を得て14期会長として選任されました。14期生徒会の皆さんこれからも活躍を期待しています。

これから生徒会役員のメンバーと一緒に明るくて楽しい学校を作りたいです。共有掲示板を積極的に活用して生徒たちの意見を把握し改善したり、言語能力向上のためにオンラインインスタディー会を開いたりして、充実した学校生活を送れるように頑張ります。

様々な活動を行ってきました。

高等部2年生になった今年、今までKISで学んだ言語能力と経験を活かして生徒会長に挑戦したいと思

いながらも、「留学生の私にできる企画、進行してくれました。今年は高等部から6名、中等部から2名が立候補しました。立候補者は皆丁寧かつ熱い演説を披露しました。公約や取り組みの方法は違いましたが、皆さんのが「楽しい学校を作りたい」「KISをより良い学校に

選挙が行われました。今回の選挙はこれまでコロナ禍の色々な制限の中でもよく頑張ってきた13期生徒会が企画、進行してくれました。

今年は高等部から6名、中等部から2名が立候補しました。立候補者は皆丁寧かつ熱い演説を披露しました。公約や取り組みの方法は違いましたが、皆さんのが「楽しい学校を作りたい」「KISをより良い学校に

選挙が行われました。今回の選挙はこれまでコロナ禍の色々な制限の中でもよく頑張ってきた13期生徒会が企画、進行してくれました。

今年は高等部から6名、中等部から2名が立候補しました。立候補者は皆丁寧かつ熱い演説を披露しました。公約や取り組みの方法は違いましたが、皆さんのが「楽しい学校を作りたい」「KISをより良い学校に



學園長特別授業

2021年6月28日、コリア国際学園学園長の金時鐘先生（詩人）による特別授業がありました。金時鐘先生は釜山で生まれ済州島で幼少期を過ごされ、解放後に日本に渡つて高校教師をされながら詩人として活躍されます。在日を代表する詩人として、2015年に『朝鮮と日本に生きる—済州島から猪飼野』で大佛（おさらぎ）次郎賞を受賞されました。学校からは「金時鐘先生の生き様とコリア国際学園に対する思いを話してください」とお願いしましたが、「1時間では無理だな」と言うことで、今回は第1弾ということになります。



放後に必死で覚えた朝鮮語とハングル。それでもご自身の意識を作り上げているのは日本語であるという気づき。「言葉を覚えたからと言つて朝鮮人になつたとはいえない」という言葉は、言語とアイデンティティについての重要な問いかけでした。「言葉とは」「教育とは」「文化とは」、貴重な体験談の中に考えるべきことがたくさんありました。

多様な生徒たちがともに過ごすコリア国際学園の生徒たちにこそ、深く考えて欲しいお話をしました。

月額1,000円からのマンスリーサポーターになってください



コリア国際学園（KIS）は学校

コリア国際学園（KIS）は学校教育法上の一校ではなく、保護者たちにご負担いただいている学費と、たくさんの支援者からの寄付で運営されています。しかし、コロナ禍による自粛の長期化で支援者のみなさまも大変な状況になつてしましました。

今後はコリア国際学園（KIS）の運営を支えてくださるマンスリーサポーターを広く募集したいと思います。いただいた寄付は教職員の人工費、施設費、教材費など学校運営のために活用させていただきます。

なにとぞよろしくお願いいいたします。